

9月消費支出 2.8%減

家計調査

総務省が7日発表した9月の家計調査によると、1世帯(2人以上)当たりの消費支出は28万2969円

と、物価変動の影響を除いた実質で前年同月比2.8%減少しました。マイナスは7カ月連続。外出関連の支出が増えた一方、猛暑の影響を受け野菜や秋物衣料

の支出が減りました。減少項目では、猛暑による野菜の生育不良の影響で食料が3.7%減。トマトが14.2%、さや豆が29.4%それぞれ減りました。

秋物需要の伸び悩みを背景に、洋服は21.7%のマイナス。また、昨年の集ごもり需要の反動で冷蔵庫などの家庭用耐久財が13.3%減少。除菌スプレーなどを含む家事用消耗品も12.0%減りました。

増加項目では、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」に移行したことによる外出場で外食が9.3%伸びたほか、自動車等関係費が22.1%のプラス。自動車関係支出のうち、メンテナンス需要で整備費は24.8%増え、半導体不足緩和による生産回復を背景に購入も71.5%増となりました。猛暑の影響で、電気代は10.6%増えました。

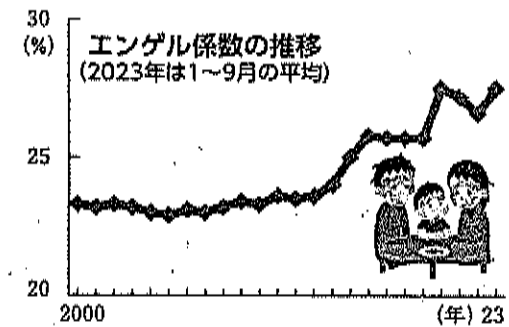
食料購入量 3.7%減も支出は5%増

解説

9月の総務省「家計調査」は家計を切り詰めても、出費がかさむ実態を浮き彫りにしました。深刻なのは食料支出です。2人以上の世帯では前年同月比へ3.7%も購入量(実質値)が減少したにもかかわらず、実際に支払った金額(名目値)は5%も増えたのです。物価は高騰しています。総務省「消費者物価指数」によると、9月の物価は前年同月比へ2.8%の上昇でした。とりわけ食料は9%と大幅に上昇しまし

物価高が家計直撃 消費税減税は急務

た。帝国データバンクがまとめた食品主要195社の価格改定動向によると、9月は2148品目、10月は4757品目で食品値上げが行われました。2023年全体では予定を含め3万2189品目の値上げです。この食料価格の上昇が家計を圧迫しています。消費支出に占める食料支出の割合をエンゲル係数といいます。生活水準の指標とされます。9月のエンゲル係数は前年同月比へ1.2%上昇し、28.6%となりました。エンゲル係数は5月以降、5カ月連続



で28%を超えて高止まりしています。23年は1~9月の平均で27.5%と比較可能な00年以降、もっとも高かった20年と並ぶ水準で行われています。しかも企業への補助金であり、直接家計をあたためるものでもありません。日本共産党は経済再生プランで5%への消費税率引き下げを提案しています。消費税減税で食料をはじめほとんどの商品・サービス価格を引き下げることができま

(清水渡)